

令和 4 年 7 月 1 日

(宛先) 公益財団法人名古屋まちづくり公社

住 所 愛知県長久手市荒田 1-2

センチュリースクエア藤が丘 FS-904

氏 名 藤森 幹人 印

(団体の場合は所在地、名称及び代表者氏名)

地域まちづくりアドバイザー派遣業務報告書

年 月 日付けで団体に派遣され、下記のとおり業務を行いましたので、公益財団法人名古屋まちづくり公社地域まちづくりサポート制度要綱第 19 条の規定により報告します。

記

1 派遣された日時

令和 4 年 6 月 26 日(日曜日) 午前 10 時 00 分 から 午後 00 時 00 分

2 派遣された団体名

藤巻町自治会

3 指導助言を行った内容

- ・ 2016 年に市へ提言した「藤巻のさと構想」の経緯と地域課題を振り返り、まちづくり全体における「オアシスの森づくり事業」の意味や役割について説明を行った。オアシスの森づくり事業は、藤巻の貴重な自然環境の保全や魅力向上、森林管理と安心安全な住環境整備の上で有効な取組みであるが、インフラ整備は直接に行われる事業ではないことを説明。その上で、地区住民が協力していく意味や役割についてアドバイスを行った。
- ・ 特に、整備後に期待される”市民主体の森づくり組織”の編成や運営について、藤巻町自治会の役割や責任について不安・負担という声上がるなか、自治会として責任を負う必要はないことを説明した。さらに猪高緑地での事例を掲げながら、あくまで任意組織であり、現在のメンバー以外に町内外の若手など新たな担い手の登場も期待しつつ、無理なく楽しくやれる人が運営していく組織を目指すべきとアドバイスを行った。
- ・ そのほか、オアシスの森づくり事業の市民ワークショップの展開イメージについてアドバイスした。

4 今回の派遣の感想等

- ・ インフラ整備という重たい課題があるがゆえに、新しい担い手の登場や、楽しい活動展開がなされにくくなっている印象をもった。これまでの自治会メンバーとは別のグループとして若手グループを立ち上げて自立運営し、自治会と協力関係をもつ体制づくりも一つの選択肢と考えられる。

備考 用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とする。